

第166話 多様な町内の神仏信仰 中山町 歴史散策

町内には数多くの石碑があり、これらは全て庶民信仰の産物です。数の多いものでは、観世音信仰にかかわる「観世音」8基、「馬頭観世音」8基、「三十三観音」3基に加えて、巡拝塔といわれる参詣記念のもの14基があります。これに十八夜供養塔8基を合わせると41基に達します。

また、地藏菩薩信仰にかかわるものは30基、六地藏が3か所。庚申塔は23基。また、出羽三山供養塔が25基、巡拝塔5基で、こちらが合わせて30基。それに伊勢講碑23基などが、数が多い部類になります。

念仏供養塔は、観音信仰、地藏信仰いずれにも含まれるように、宗旨宗派を問わず、知っているものは念仏に加えてあるの、分類に苦勞しますが、一括して念仏供養塔とすれば、念仏供養3基、夜念仏4基、百万遍供養塔9基、光明真言3基を含めると全部で19基、ほかに特定の日に供養日を持つものに、日待塔2基、巳待塔3基、二十三日供養塔4基、二十六夜塔3基があります。これらの所在は、路傍や寺社境内が圧倒的に多いのですが、今日では、道路拡張工事、農地基盤整備事業、都市区画整備など、それぞれの都合で建立地から移動しているものも多く、旧建立地を確定し、記録しておく必要があります。

このように多くの碑を持つ神々や仏のほかに、例えば旅の途中に勧請して、個人的に祀ったものや、口伝えに信仰の対象にしたものがあります。このうち、金神、商売神は「地神金神」、「大黒天」、「八聖山」などがあります。大黒天は七福神の1人で、打ち出の小槌を握り、米俵に片足を乗せた金神で、米にはネズミが付きもの、そこから「子」を待つに結びついたと言われています。

葉山信仰
小塩の集落からは、今も葉山がよく見えます。その昔、室町時代以前は葉山こそが山岳信仰の主対象でした。土地の人々にとって、この山の雪解け具合が農耕の目安となつて、馬の形、鳥の形など、様々な残雪の形を見て種子をまき、苗を植える指標となつたことから、「作の神」「山の神」信仰の対象でありました。

葉山は修験の山でもあります。山麓の慈恩寺は単なる寺ではなく、葉山を奥の院とする修験者の一山であり、永正11年(1514年)「慈恩寺本堂文書」には、一山の林泉坊をはじめ、七坊が葉山参詣の先達を務めたと言われています。

その後、寒河江を領有した大江氏の保護を受け、江戸時代の初期には2800石の朱印寺領を持つに至りました。こうした隆盛の山を朝夕拜んだ小塩村の人々は、「御福田」を踊り豊作を祈願して今日に至っています。

【用語の説明】
勧請する…神仏の分身・分霊をほかの地に移して祀ること。

※引用 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

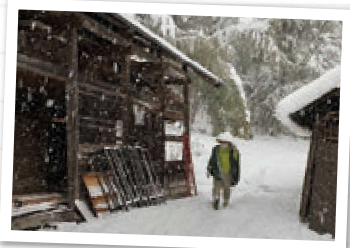
私たち地域おこし協力隊です！ No.33



先日、健康診断で少し身長が伸びていた稲垣です。去年とは違って今年の冬の山形は本気で山形1年生を迎えてくれています。除雪中に雪を落として、雪にはまって、落雪で埋もれて…の試される毎日です。九左衛門点検中かぶっていた笠にも雪が積もって写真のような姿になったり、雪玉で狙い撃たれたり、竹に積もった雪を落としてベトベトになったりもしましたが、なんとか元気にやっています。

そんな雪国の受難がある一方で、子どもの頃からの憧れもあります。それはかまくらを作つて中で一献楽しむこと。七輪を置いて、里芋や油揚げを焼きながら、ずっと本や論文を読んでいたい！でも、九左衛門でははいけませんし、そもそも私が入れるようなサイズは難しいかな…。

そんな寒い日にはやっぱり温かいものが恋しいですね。新年のお雑煮や納豆汁などたくさんありますが、年末頃からライズの駐車場など町内外でほかほかのお菓子、「あじまん」とも出会いました。東北では「あじまん」ですが、三重県にある私の実家では「大判焼」「御座候」「今川焼き」と呼んでいました。味はほとんど変わらないのですが、あじまんはバリエーションが豊富だと思います。サイズは地元の方が大きかったかな？ほかに「天輪焼」や「花見焼き」「きんつば」など各地でたくさんの呼び方があるそうです。生活で慣れ親しむ物にこそ、地域差や民俗に関する物ってたくさんあります。年末から春先はどこでも様々な行事があつて面白い風習を目にしやすい時期ですので、ぜひ探してみてください。



笠地藏のようにこんもり積もっています

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階